

1	チーム名 (研究対象領域・教科)	小学部 国語 2
2	メンバー	小学部教員 5名
3	チームのテーマ	人とのやりとりを広げる聞く力、話す力
4	対象児童に願う主体的な姿	

A児	やりとりをする相手を広げたり、相手とやりとりしながら話をしたりすることができる。
B児	相手の話を聞き、それに対して落ち着いて音声や身振りで答えてやりとりすることができる。
C児	話すことができる言葉を増やし、伝えたいことを言葉で伝えようとするすることができる。
D児	相手の話を聞いて、それに合う行動や言葉のやり取りをすることができる。
E児	指差しだけでなく、言葉の数を増やし、自分の思いを表現することができる。

5 研究実践の内容

(1) 指導内容

※聞く力、話す力を育てるにあたり、次の視点で実践した。

人間関係を広げる → 「聞く・話す」の前段階

<あいさつできる相手や知っている相手を増やす>

- ① あいさつがんばりカード (あいさつできた教師の名前を書く。) (A児)
- ② 身近な人の顔のペープサート (ごっこあそび) (B児)
- ③ 写真カード (カード合わせゲーム) (B児) 写真ア

ア



ウ



エ



聞く **話す**

<教師や友達の話の聞いたり、話をしたりしてやりとりをする>

- ① お話作り (4枚のカードを並べ替えて、お話を作る。) (A児) 写真イ
- ② 「絵かるた」 (身近なものの名前を聞いたり、文字を読んだりする。) (D児)
- ③ 「お話を聞こう」 (昔話の一場面の話を聞いて、それに合う絵を選ぶ。) (D児) 写真ウ
- ④ 「友達写真かるた」 (質問を聞いたり、文カードを読んだりして合う写真を選ぶ。) (D児)
- ⑤ 絵本を一緒に読む (E児) 写真エ

<発音の明瞭度を高める>

- ① 口の運動、かるた (C児) 写真オ
- ② 文字構成課題 (C児)

オ



カ



キ



ク



言葉を増やす

<具体的な名詞や動詞、形容詞などの単語を取り上げて学習をする>

- ① 場面イラスト (あいさつやB児の生活場面) (B児) 写真カ
- ② 動詞・形容詞の動作化、マッチング (イラストと文字カードのマッチング) (C児)

- ③ 学校生活の写真（「〇〇君、なにしてる？」写真を見て、文字カードを選ぶ。）（C児）写真キ
 - ④ ジェスチャーゲーム（何をしているのかをあてる。）（C児）
 - ⑤ 動作カード（E児からの発語を言葉に言い換える。）（E児）写真ク
- ※ほかの教材についても、言葉を増やすことにつながっている。

(2) 教材に関して授業作りの中で配慮したこと

<教材の作成>

- ① 児童が興味があるものを活用する。（友達、教師、絵本、漢字、写真、学校生活・行事場面など）
- ② 児童が生活で必要としている言葉や場面をしぼる。

<活用の仕方>

- ① 友達や教師とやりとりをしながら進める。
- ② 身振りや指さし、児童が発声している語を適した言葉に言い換える。
- ③ ゲームやクイズ形式で楽しく学習する。
- ④ 1時間の中で、反復学習をする。
- ⑤ 児童の段階に応じた提示の仕方をする。
 - ・できそうな内容から始め、難易度を上げる。
 - ・カードを使う場合、カードの枚数を増やしたり減らしたりする。
 - ・文や言葉を書いて視覚化する。

<評価の仕方>

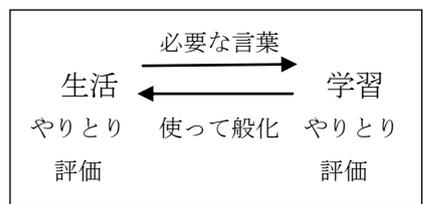
- ① 自己評価する。（答えの確認、見直し、読み返し）
- ② 日常生活で友達や教師とやりとりしている時や学習した言葉を使えた時に、タイミングを逃さず、その場で称賛する。
- ③ できた！という自信を持てるように称賛する。（ハイタッチ他）

(3) 成果

- A児・あいさつされてスムーズに返し、相手に聞こえる声であいさつができるようになった。
 - ・話筋をつけて考えたり、教師の質問に本人なりの考えで話したりすることができるようになった。
- B児・身近に感じる教師が増え、安心して相手の話を聞いたり話したりできる場面が増えた。
 - ・場面に応じた言葉を使ってやりとりできることが増えてきた。
- C児・発音が明瞭な言葉が増え、主体的に話したり動作で伝えたりすることが増えた。
- D児・生活場面で教師の話の意図を聞き取って行動できるようになってきた。
- E児・自分から絵本や図鑑を開き、教師に指差しを交えながら自分から言葉を発するようになってきた。会話を楽しんでいる。

6 成果と課題

大きく3つのことに配慮したことで、「やりとりを広げる聞く力や話す力」が身についてきていると考える。①教材の作成時に児童の生活の中の言葉を大切にすること、②授業の中でもやりとりを大切にすること、③成果を児童自身も感じられるように評価することである。



「生活に必要な言葉を学習し、それを生活で般化させ、評価して強化、そしてまた次の学習をする」の繰り返しの中で、児童が教材を楽しく使ったり、お話をしたりしながら意欲をもって主体的に取り組むことにつながった。

授業の中で友達や教師とできているやりとりが、生活の中では、相手の話や言葉かけを聞いたり自分が伝えたいことを言葉や身振りなどで伝えたりするように、教師が意図的に支援をしていかないと、やりとりが流れてしまうこともある。児童の実態に応じて「聞く力」「話す力」のどこを伸ばしていけば自信をもってやりとりをしていけるか継続した指導をしていかなければならない。